

平成28年度 小美玉市立堅倉小学校 学校関係者評価書

小美玉市立堅倉小学校 学校関係者評価委員会

1 学校関係者評価委員会の総評

- 児童の学習態度も全体的に大変落ち着いており、楽しいと感じながら学習している姿が多く見られた。学習形態もコの字やグループ学習などが多く取り入れられており、活発に意見交換する姿も見られた。掲示されているプリントや作品、ノート等にも、児童一人一人の努力や成果が表れていた。学力面での個人差については、今後も家庭と連携しながら、地道に繰り返し個別指導を行ってほしい。
- 保護者の生活習慣が変わり、あいさつ、規範意識、思いやり、言葉づかいやマナーの在り方など、学校で指導することが増えている。学校だけの指導では追いつかない部分も多く、家庭との連携の在り方を工夫しながら今後とも子どもたちを指導して行ってほしい。

2 分野別評価

分野	学校の取組に関する評価と今後の改善点
学習指導の工夫改善	○ 先生方が、子どもたちの考える力、判断する力、表現する力を向上させようという意識をもって授業に取り組んでいることが感じられる。これらの力が小さいうちに身に付けば、その子の可能性が大きく変わると思うので、今後とも継続して取り組んでいって欲しい。「授業で『分かった・できた』と感じる児童」が88%と昨年よりも増加していることから、教師の授業力向上が児童の学習意欲向上や学習内容の理解に表れているように感じる。今後も授業研究に意欲的に取り組み、校内研修が充実することを期待している。 ○ 茨城県学力診断のためのテスト結果では、学年や教科でのばらつきが見られた。児童の学習意欲を維持しながら、基礎基本の定着と、身に付けた知識や技能を活用する力の向上に力を入れてほしい。 ○ グループ活動を取り入れた学習形態が多くみられるようになり、一人一人の活躍の場を配慮した授業が多く行われていた。児童同士が、互いに見合ったり聞き合ったりする機会をもつことは大切なので、今後も、学んだことを自分の言葉や文章、作品などの方法で、表現することを楽しめる指導に力を入れてほしい。
温かな人間関係づくり	○ 「学校生活が楽しい」と回答する児童が 91.4 %，保護者が 95.5 %という結果から、児童、保護者ともに学校や学級を心の居場所と感じていることが分かる。 ○ 支持的学級風土を基盤にした授業づくりと温かな人間関係づくりが、工夫してなされている。児童の自主的・自発的な活動が教育活動に組み入れられ、児童が自己有用感や学級への所属感を味わうよい機会となっている。互いに相手の良さを認め合い、励まし合える集団作りを今後も継続してほしい。 ○ 「あいさつ」については、先生方もいろいろ考え、苦労しているのが分かる。児童のアンケートからも、「あいさつ」がよく出来ていないことを自覚している様子が見られ、保護者アンケートからも同様の結果が出ている。低学年の「あいさつ」は改善されてきているように感じるので、今後とも保護者の協力を得ながら根気強く取り組んで行ってほしい。
家庭や地域との連携	○ 保護者アンケートで、回答数や肯定的な意見が多いことを見ても、信頼関係ができていることが伺えるので、今後とも保護者との連携を密にしながら学校運営を進めてほしい。 ○ メール配信等を活用したスピーディーな情報提供や、ホームページの毎日の更新、学校便りの発行等、学校側からの働きかけは十分になされていることを感じる。今後も個人情報の保護に注意しながら継続してほしい。